

***Pagurus nipponensis* (Yokoya, 1933) シマハダカホンヤドカリ**

(図 45)

**調査標本.** 鳥取県. 鳥取市長尾鼻沖, 35°55'N, 134°00'E, 水深 100 m, けた網, 2019 年 4 月 17 日, 1 抱卵メス (sl 5.9 mm), TRPM-798. 兵庫県. 浜坂町 (新温泉町) 沖, 水深 100 m, トロール, 1993 年 7 月 8 日, 1 乾燥性未確認個体 (sl 未測定), TRPM-甲 07-033.

**分布.** 日本 (太平洋側: 茨城県から鹿児島; 日本海・東シナ海側: 青森県から鳥取県, 五島列島, 甕列島), 韓国, 台湾 (Yokoya, 1933, *Eupagurus nipponensis* として報告; Komai, 1998, *Parapagurodes nipponensis* として報告; Asakua, 2006; McLaughlin et al., 2007; Kim and Kim, 2014; Osawa and Ota, 2020).

**生息場所.** 貝殻まじりの砂・砂泥底; 水深 30–335 m (Komai and Takeda, 2006; McLaughlin et al., 2007).

**備考.** 本種は, ハダカホンヤドカリ *Pagurus gracilipes* (Stimpson, 1858) と混同されていた (例えば, Miyake, 1978; 三宅, 1998) が, Komai (1998, *Parapagurodes nipponensis* として報告) は, 尾節や歩脚の指節の形態, そして鉗脚および歩脚の色彩により, これら 2 種は区別できることを示した.

ハダカホンヤドカリおよびシマハダカホンヤドカリとも, 宿貝の表面に通常, 1 個体または複数個体のイソギンチャク類を付ける (Komai, 1998, *Parapagurodes nipponensis* として報告).



図 45. *Pagurus nipponensis* (Yokoya, 1933) シマハダカホンヤドカリ, 鳥取県鳥取市長尾鼻沖, 抱卵メス (sl 5.9 mm).

***Pagurus ochotensis* Brandt, 1851** オホーツクホンヤドカリ

(図 46)

**調査標本.** 島根県. 出雲市十六島町, 十六島漁港, 底曳網, 漁獲残物, 2013年5月30日, 1 乾燥性不明個体 (sl 16.0 mm), SNMH.

**分布.** 日本 (北海道から千葉県銚子市犬吠埼・山口県まで), 韓国, シベリア, カムチャッカ, オホーツク海, サハリン, クリル諸島, ピョートル大帝湾, ベーリング海からオレゴン州 (McLaughlin, 1974; 三宅, 1998; Asakura, 2006; 園山ほか, 2017b).

**生息場所.** 岩盤上に岩石の多いところ, 砂・砂泥底; 水深 5–249 m (McLaughlin, 1974; 三宅, 1998; 峯水, 2002).

**備考.** 調査標本は, 漁港岸に漁獲残物として放置されていた乾燥個体である. 右鉗脚を失っていることに加え, 体全体が大きく破損しているが, 保存されている眼柄, 左鉗脚, 歩脚の形態に加え, 歩脚の前節および指節の側面に見られる縞模様に基づき, オホーツクホンヤドカリ *Pagurus ochotensis* Brandt, 1851 に同定された (McLaughlin, 1974; 三宅, 1998 を参照; 大澤ほか, 2014).

島根県出雲市十六島漁港に着岸していた漁船付近より得られたことから, 調査標本は沖合の底曳網漁業の混獲物であると考えられる. 島根県の沖合からは, オホーツクホンヤドカリのほか, ゴトウヤドカリ *Elassochirus cavimanus* (Miers, 1879), ラスバンホンヤドカリ *Pagurus rathbuni* (Benedict, 1892), ミヅテホンヤドカリ *Pagurus undosus* (Benedict, 1892), ミツカドホンヤドカリ *Pagurus trigonocheirus* (Stimpson, 1858) の4種の寒海・深海性ヤドカリ類が記録されている (本尾ほか, 2011; Komatsu, 2014).



図 46. *Pagurus ochotensis* Brandt, 1851 オホーツクホンヤドカリ, 島根県出雲市十六島町, 漁港, 性不明個体 (sl 16.0 mm), 乾燥.

*Pagurus proximus* Komai, 2000 イクビホンヤドカリ

(図 47)

調査標本. 島根県. 松江市島根町小具, 漁港, タコつぼ, 2013年4月20日, 1オス (sl 4.7 mm), SNMH.

分布. 日本 (北海道函館湾; 太平洋側: 青森県から房総半島, 岡山県, 広島県, 伊豆大島; 日本海側: 新潟県, 島根県), 韓国, ロシア (ピョートル大帝湾) (Komai, 2000; Kim et al., 2004; 奥野・有馬, 2006; 大澤ほか, 2014; 吉郷, 2022).

生息場所. 岩礁, 藻場, 砂泥底; 潮間帯から水深 20 m (Komai, 2000; 峯水, 2002; Komai and Takeda, 2006).

備考. 調査標本に加えて, 島根県松江市島根町加賀桂島においても本種を確認している.

Komai (2000)は, *Pagurus brachiomastus* (Thallwitz, 1891)に同定されてきた標本およびその時点までの報告・記録の整理を行い, *Pagurus brachiomastus* (ツマベニホンヤドカリ)の他に *Pagurus proximus* Komai, 2000 (イクビホンヤドカリ)および *Pagurus simulans* Komai, 2000 (チャイロイクビホンヤドカリ)の2新種が混同されていたことを明らかにした.



図 47. *Pagurus proximus* Komai, 2000 イクビホンヤドカリ, 島根県松江市島根町小具, オス (sl 4.7 mm).

*Pagurus quinquelineatus* Komai, 2003 ゴホンアカシマホンヤドカリ

(図 48)

調査標本. 島根県. 出雲市十六島町, 十六島漁港, 水深 1.5 m, 2015 年 3 月 30 日, 1 抱卵メス (sl 1.9 mm), SNMH. 鳥取県. 岩美町羽尾岬沖, ゴイシクラ, 35°60.4'N, 134°33.9'E, 水深 10 m, SCUBA, 2018 年 8 月 13 日, 1 オス (sl 1.7 mm), TRPM-799.

分布. 日本 (太平洋側: 房総半島から伊豆半島, 伊豆大島; 日本海側: 福井県から島根県), 韓国 (Komai, 2003a; 奥野・有馬, 2004; Asakura, 2006; 大澤ほか, 2016; Jung et al., 2018).

生息場所. 岩礁; 潮間帯から水深 16 m (Komai, 2003a; 有馬, 2014).

備考. Komai et al. (2015)は, ゴホンアカシマヤドカリに形態および色彩が近似するエダジマホンヤドカリ *Pagurus rectidactylus* Komai, Saito and Myorin, 2015 を, 広島県および福井県から採集された標本に基づき記載した. エダジマホンヤドカリは, 右鉗脚の指節上に明瞭な棘列を持たないこと, 歩脚がより伸長して細くなり, その指節と前節の腹縁により多くの小棘を持つこと, そして色彩については, 眼柄の内面に明瞭な暗褐色の斑紋を持たないこと, 両鉗脚の長節の内面の斑紋がより明色であることによつて, ゴホンアカシマヤドカリから区別できる (Komai, 2003; Komai et al., 2015).



図 48. *Pagurus quinquelineatus* Komai, 2003 ゴホンアカシマホンヤドカリ, 島根県出雲市十六島町, 抱卵メス (sl 1.9 mm).

***Pagurus rathbuni* (Benedict, 1892) ラスバンホンヤドカリ**

(図 49)

**調査標本.** 兵庫県. 香美町沖, 35°51.7'N, 134°45.6'E, 水深 226 m, 底曳網, 2010 年 6 月 2 日, 3 オス (sl 8.2–14.9 mm), SNMH. 但馬沖 (香美町沖), 水深 300 m, トロール, 1995 年 11 月 24 日, 2 乾燥性未確認個体 (sl 未測定), TRPM-甲 07-001.

**分布.** 東シベリア海, カムチャッカ, オホーツク海, クリル諸島, 日本 (北海道から茨城県・島根県まで), チュクチ海, ベーリング海, 北極海, 韓国 (McLaughlin, 1974; 三宅, 1998; Komatsu and Komai, 2009; 本尾ほか, 2011; Kim and Kim, 2014).

**生息場所.** 水深 420 m 以浅 (Komatsu and Komai, 2009).

**備考.** 大澤ほか (2014)は, 本調査標本の産地を「鳥取県東部沖」と誤って報告している.

島根県の沖合からは, ゴトウヤドカリ *Elassochirus cavimanus* (Miers, 1879), オホーツクホンヤドカリ *Pagurus ochotensis* Brandt, 1851, ラスバンホンヤドカリ, ミツカドホンヤドカリ *Pagurus trigonocheirus* (Stimpson, 1858), ミヅテホンヤドカリ *Pagurus undosus* (Benedict, 1892)の 5 種の寒海・深海性ヤドカリ類が記録されている (本尾ほか, 2011; Komatsu, 2014; 大澤ほか, 2014). 日本海の沖合域において, これら 5 種の中で確認されている個体数が最も多いのは, ラスバンホンヤドカリである (Komatsu, 2014).



図 49. *Pagurus rathbuni* (Benedict, 1892) ラスバンホンヤドカリ, 兵庫県香美町沖, オス (sl 14.9 mm), エタノール液浸.



***Pagurus rubrior* Komai, 2003** ベニホンヤドカリ

(図 6E, 50)

**調査標本.** 島根県. 松江市島根町小具, 漁港, 刺網, 2013年4月5日, 1オス (sl 17.5 mm), 1メス (sl 16.4 mm), SNMH. 松江市島根町大芦, 大芦漁港, 刺網, 2013年6月29日, 1オス (sl 15.6 mm), SNMH. 松江市島根町野波, 漁港, 刺網, 2013年4月13日, 1メス (sl 14.8 mm), SNMH. 鳥取県. 東伯町 (琴浦町)逢東加勢蛇川河口, 1991年7月14日, 1乾燥性未確認個体 (sl 未測定), TRPM (未登録). 岩美町羽尾, 2009年8月20日, 1抱卵メス (sl 未測定), TRPM-CB-0000561.

**分布.** 日本 (太平洋側: 房総半島から九州; 日本海側: 新潟県から山口県), 韓国 (Komai, 2003b; Asakura, 2006; 本尾, 2007).

**生息場所.** 岩礁; 水深 30 m 以浅 (Komai, 2003b).

**備考.** ベニホンヤドカリの学名には, *Pagurus similis* (Ortmann, 1892)があてられてきた (たとえば, Miyake, 1978; 朝倉, 1995; 三宅, 1998; 峯水, 2002). しかしながら, それらの付図のほとんどは *Pagurus rubrior* Komai, 2003 のものであると判断されている (Komai, 2003b)ことから, *P. rubrior* の和名には「ベニホンヤドカリ」を使用することが適当であるとみなされている (奥野・有馬, 2004). *Pagurus similis* の和名は, その体色にちなみ「ヤマブキホンヤドカリ」となっている (Komai and Takeda, 2006).

ベニホンヤドカリは, 大型個体ではサザエ *Turbo sazae* Fukuda, 2017 を宿貝とし, 島根半島沿岸ではサザエ刺網漁業の混獲物として, ヤマトホンヤドカリ *Pagurus japonicus* (Stimpson, 1858)とともに, 頻繁に見かけることができる.

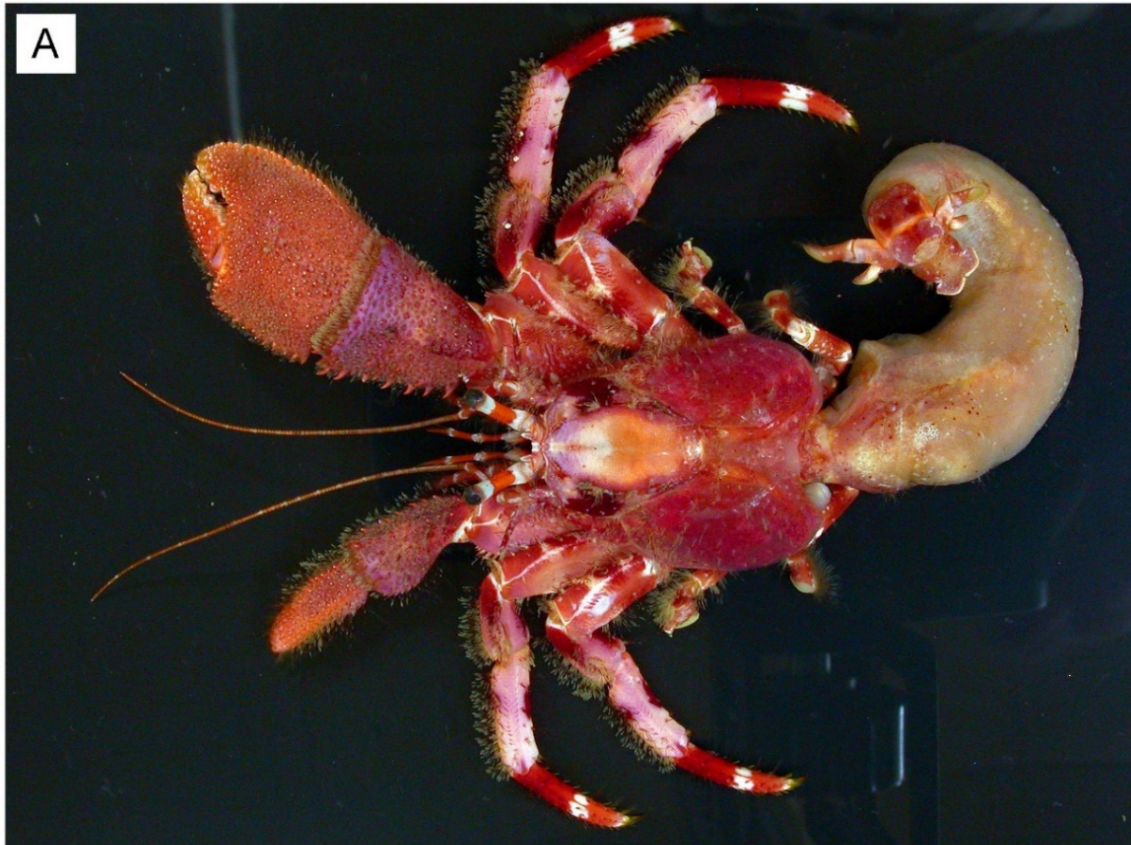


図 50. *Pagurus rubrior* Komai, 2003 ベニホンヤドカリ, 島根県松江市島根町小具, オス (sl 未測定) (A); 島根県松江市島根町小具, メス (sl 未測定) (B).

*Pagurus spina* Komai, 1994 ヒメケアシホンヤドカリ

(図 51)

調査標本. 島根県. 隠岐の島町加茂 (隠岐諸島島後), 潮間帯, 2013年6月9日, 1オス (sl 3.6 mm), SNMH.

分布. 日本 (太平洋側: 岩手県, 伊豆半島, 伊豆大島; 日本海側: 福井県, 島根県), 韓国 (奥野・有馬, 2006; 大澤ほか, 2014; Jung et al. 2018).

生息場所. 岩礁; 潮間帯から水深5 m (Komai, 1994; 奥野ほか, 2006).

備考. 本種の形態的特徴については, Komai (1994)および奥野ほか (2006)が示している. 加えて, ヒメケアシホンヤドカリと形態が類似する2種, ケアシホンヤドカリ *Pagurus lanuginosus* De Haan, 1849 およびホシゾラホンヤドカリ *Pagurus maculosus* Komai and Imafuku, 1996 との色彩における識別点は, 奥野ほか (2006)が記述している. ヒメケアシホンヤドカリは, 眼柄上の暗褐色の縦縞に加え, 鉗脚および歩脚の長節の末部に白色の横帯を持つことによって, ケアシホンヤドカリおよびホシゾラホンヤドカリから容易に区別できる. 胸脚上の白色の横帯は, 奥野ほか (2006, pl. 3-I)においても図示されている.



図 51. *Pagurus spina* Komai, 1994 ヒメケアシホンヤドカリ, 島根県隠岐の島町加茂 (隠岐諸島島後), オス (sl 3.6 mm).

*Porcellanopagurus nihonkaiensis* Takeda, 1985 マルミカイガラカツギ

(図 52)

調査標本. 鳥取県. 岩美町田後沖, ヤマダシ, 35°60.2'N, 134°31.1'E, 水深 15 m, SCUBA, 2018 年 9 月 20 日, 1 抱卵メス (sl 1.9 mm), TRPM-800.

分布. 日本 (太平洋側: 房総半島, 相模湾, 伊豆半島, 伊豆大島, 紀伊半島; 日本海側: 石川県, 鳥取県), 韓国 (奥野・有馬, 2004; Komai and Takeda, 2006; Kim and Kim, 2017; Osawa and Ota, 2020).

生息場所. 岩礁; 水深 15–73 m (Komai and Takeda, 2006; Osawa and Ota, 2020).

備考. カイガラヤドカリ属 *Porcellanopagurus* Filhol, 1885 は, 二枚貝の 1 殻を背負うという特徴を持つ. 本属は, 日本沿岸から, *P. filholi* de Saint Laurent and McLaughlin, 2000, カイガラカツギ *P. japonicus* Balss, 1913, マルミカイガラカツギ *P. nihonkaiensis* Takeda, 1985, チビカイガラカツギ *P. truncatifrons* Takeda, 1981 の 4 種, そして日本海沿岸から, マルミカイガラカツギのみが記録されている (Komai and Takeda, 2006; McLaughlin et al., 2010; 有馬, 2014). マルミカイガラカツギのタイプ (模式)産地は, 日本海沿岸の石川県飯田湾であり (Takeda, 1985), Komai and Takeda (2006)によって当種の詳細な再記載がなされた.

調査標本は抱卵メスであり, 腹部の背面に卵を抱えていた.



図 52. *Porcellanopagurus nihonkaiensis* Takeda, 1985 マルミカイガラカツギ, 鳥取県岩美町田後, 抱卵メス (sl 1.9 mm).

## Pylochelidae ツノガイヤドカリ科

*Pomatocheles jeffreysii* Miers, 1879 ツノガイヤドカリ

(図 53)

調査標本. 鳥取県. 鳥取市長尾鼻沖, 35°55'N, 134°00'E, 水深 100 m, けた網, 2018年6月18日, 1性未確認個体 (sl 未測定), 画像のみ.

分布. 日本 (太平洋側: 相模湾, 駿河湾, 伊勢湾, 田辺湾, 土佐湾; 日本海・東シナ海側: 山形県から山口県, 福岡県), 韓国, 台湾 (Forest, 1987; 三宅, 1998; Asakura, 2006; McLaughlin et al., 2007; Kim and Kim, 2017).

生息場所. 泥底; 水深 23–331 m (三宅, 1998; McLaughlin et al., 2007).

備考. ツノガイヤドカリ科の種は, 腹部に発達した背板を持ち, 腹節構造が明瞭である. 日本沿岸から記録されているツノガイヤドカリ科は, ツノガイヤドカリのほか, ヒゲナガイヤドカリ *Cheiroplatea mitoi* Miyake, 1978, カルイシヤドカリ *Pylocheles mortensenii* Boas, 1926, ウキボリヤドカリ *Cancellocheles sculptipes* (Miyake, 1978), アルバトロストガリツノガイヤドカリ *Trizocheles albatrossi* Forest, 1987, トゲナシトガリツノガイヤドカリ *T. loquax* Forest, 1987, トガリツノガイヤドカリ *T. sakaii* Forest, 1987, アシジロトガリツノガイヤドカリ *T. albipes* Komai, 2013, ハナシトガリツノガイヤドカリ *T. inermis* Komai, 2013, ハザマトガリツノガイヤドカリ *T. parvispina* Komai, 2013 の9種である (Forest, 1987; Komai, 2013). 日本海からはツノガイヤドカリのみが記録されている (Asakura, 2006).

ツノガイヤドカリは, ゴウゲツノガイ科 *Dentaliidae* の殻を利用する (McLaughlin et al., 2007).



図 53. *Pomatocheles jeffreysii* Miers, 1879 ツノガイヤドカリ, 鳥取県鳥取市長尾鼻沖, 性未確認個体 (sl 未測定), 画像のみ;